診断Ｑ２－４　**１次関数**　　　　　　月　　日（　　）氏名[

ア５の段の九々を $5x=y$ と表すと、

x の値を 1 増やすと、

y の値は(　　)増える。

x の値を 2 増やすと、

y の値は(　　)増える。

x の値の「増える量」を「分母」としたときの

y の値の「増える量」を「分子」に表せ。

1	2	5	10

これらの値は、当然のことながら全て

(　　)である。

$y=2x$ のとき、

$\dfrac{y\text{の増加量}}{x\text{の増加量}}=(\quad)$

$y=ax$ のとき、

$\dfrac{y\text{の増加量}}{x\text{の増加量}}=(\quad)$

$\boxed{\dfrac{y\text{の増加量}}{x\text{の増加量}}}$ は [　　　　] と呼ぶことになっている。

$y=5x+1$ のとき、

x の値が 1 増えると、

y の値は(　　)増える。

x の値が 2 増えると、

y の値は(　　)増える。

左記と同様に考えると、

1	2	5	10

これらの値は、当然のことながら全て

(　　)である。

$y=5x+m$ のとき

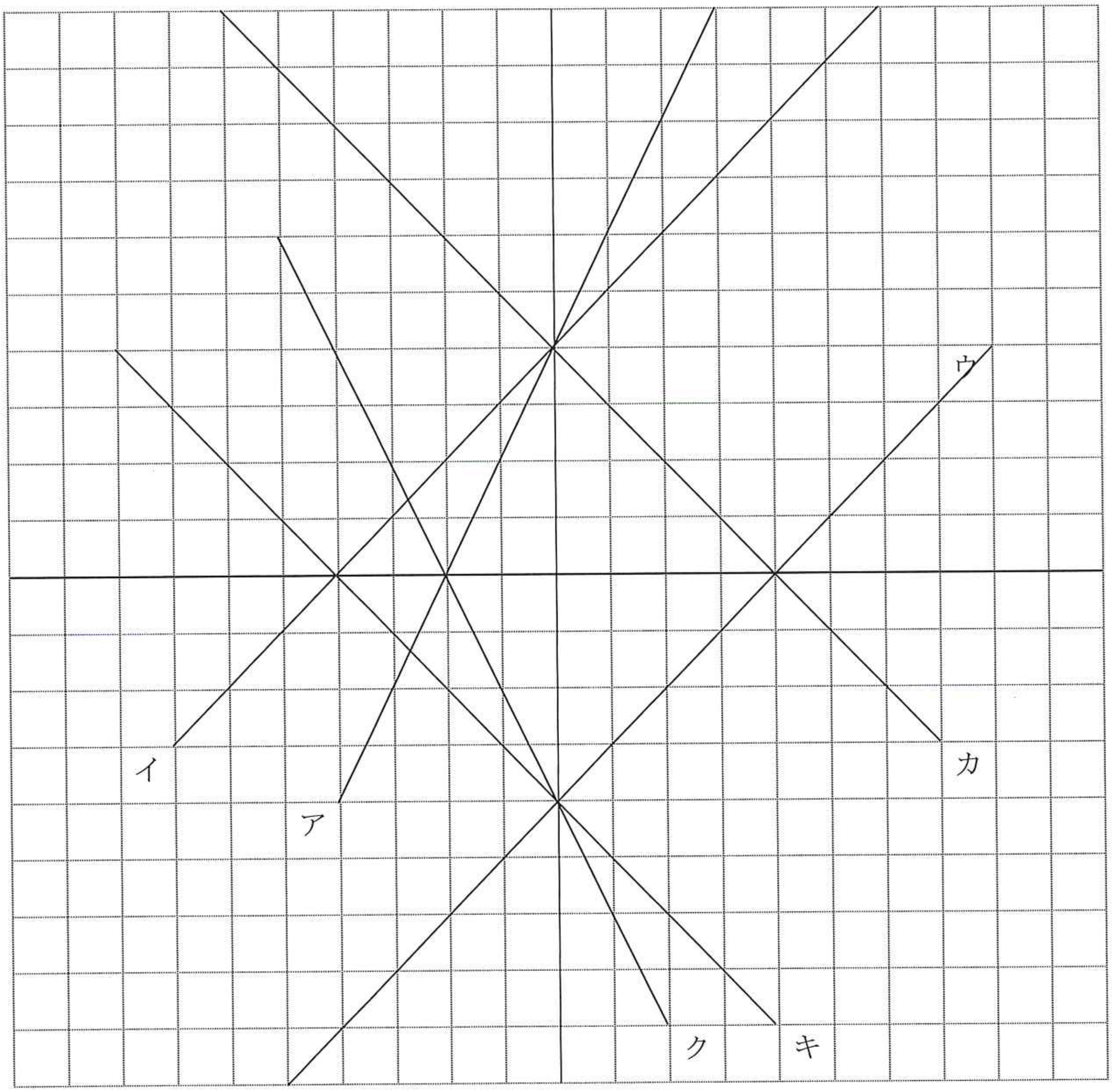
変化の割合 ＝(　　)

$y=ax+b$ のとき

変化の割合＝(　　)

$y=\dfrac{n}{m}x+b$ のとき

変化の割合＝(　　)



上の直線の式を求めなさい。

ア	y＝
イ	y＝
ウ	y＝

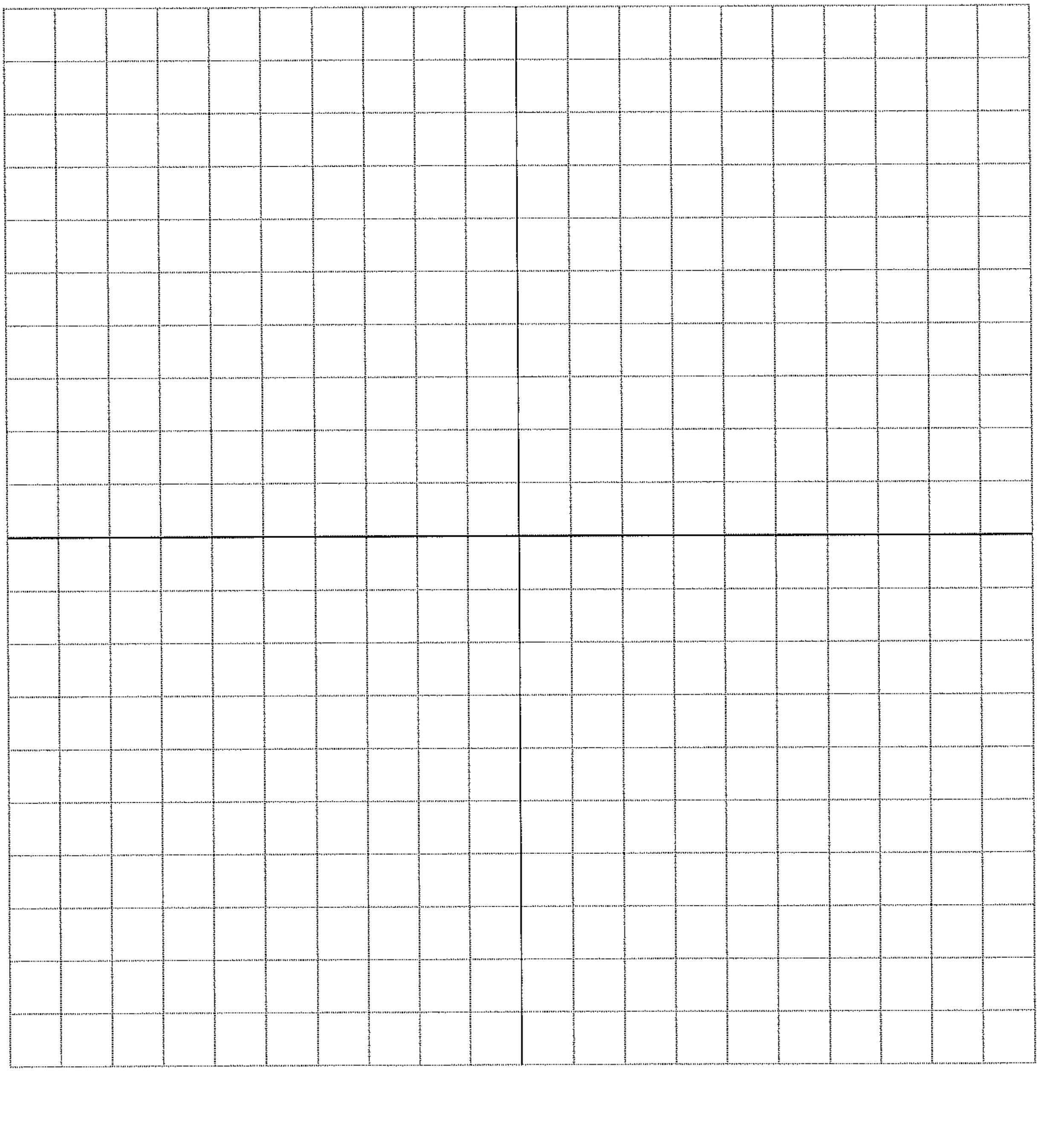
カ	y＝
キ	y＝
ク	y＝

診断Ｑ２－４　１次関数　　　　　　　　　　月　　日（　　）氏名[

次の直線の式を座標に示せ。

サ	$y=x+3$
シ	$y=x-3$
ス	$y=2x-3$

タ	$y=-x+3$
チ	$y=-x-3$
ツ	$y=-2x-3$



診断Q2－4　１次関数　　　　月　日（　）氏名[

次の文章を覚えて言いなさい。

Y が

X の　　　で表される時、

y は、x の１次関数である

と言います。

y=　　　　であるとき、

但し、a ,b は定数

y は、x の１次関数である

と言います。

上の二つの文章は、
同じことを別の形で言っていること
を確認しなさい。

$$\frac{y\text{の増加量}}{x\text{の増加量}}$$ を

と言います。

次の枠の中を完成しなさい。

y=2x+1	であるとき、
x=3 ならば	y=(　　)
y=11 ならば	x=(　　)

y=-2x+1	であるとき、
x=3 ならば	y=(　　)
y=11 ならば	x=(　　)

y=-2x－5	であるとき、
x=3 ならば	y=(　　)
y=11 ならば	x=(　　)

診断Q2−4　１次関数　　　　　　　　　月　　日（　　）氏名[

次の文を完成させよ。

１次関数

$y= ax+b$ は、

(　) に比例する項	と
(　　　)b	との和

の形になっている。

$y= 2x+3$ で、

(　　)の値が	1 増えると
y の値は	(　)増える

またこの時、

$\dfrac{y\text{の増加量}}{x\text{の増加量}}$ は常に一定で、

(　　)である。

$y= ax+b$ における、

変化の割合は(　　)で

y 切片の座標は

(　　　　)である。

次の問題を較べなさい。

ア

$y= ax+b$ であるとき、

$(x,y)=(2,8)$

$(x,y)=(4,14)$ ならば

イ

y が、x の１次関数であり

座標の２点(2,8),(4,14)

を通るならば、

ウ

座標上の直線が

２点(2,8),(4,14) を

通るならば、

エ

１次関数の変化の割合が 3 で、

点(2,6) を通るならば

診断Q2－4　１次関数　　　　　　月　　日（　　）氏名[

先ず、$\boxed{エ}$を考える。

① 傾きが３の直線であるから、

（　　　　　　）である。

② (2,8)を上式に代入して

（　　　　　　）　ゆえ

b＝2

③ ①②から（　　　　　　）

$\boxed{ア}$ **y**＝（　　　　　　）
$\boxed{イ}$ **y** が、（　　　　　　）
$\boxed{ウ}$座標上の（　　　　　　）
の３つの言い方は、 同じことを 違う形で述べたものである。

$\boxed{ア}$、$\boxed{イ}$、$\boxed{ウ}$ともに、
先ず、

$$\frac{(\qquad)}{\text{xの増加量}} = \frac{(\quad)}{4-2}$$

＝（　）として、
傾き（ｘの係数・変化の割合）を
２点から求め、しかる後、
$\boxed{エ}$と同じようにする方法。

（　　　　　　）
に２点の（ｘ、ｙ）を代入して、
（　　　　　　）についての
連立方程式として解く方法。

連立	y	x
{	8＝	
	14＝	
	6＝	
	3＝	

b は、必ず係数が無いので、

引き算で、**a** が求められる。

（　　　　　　　　　　）

から **b** ＝**2** を求めて

１次関数式

（ **y** ＝　　　　　）

が得られる。